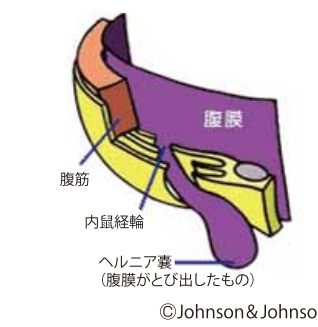


鼠径ヘルニア(脱腸)になる原因と種類

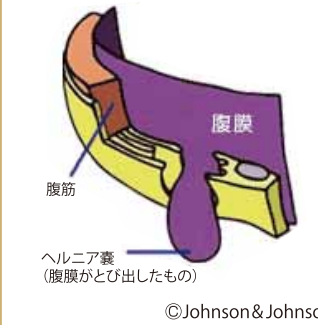
鼠径部にはお腹と皮下をつなぐ筒状の管(鼠径管)があり、男性では睾丸へ行く血管や精管(精子を運ぶ管)が、女性では子宮を支える靭帯が通っています。年をとってきて筋力が衰えてくると鼠径管の入り口が緩んできます。お腹に力を入れた時などに筋力が緩んで出来た入り口の隙間から腹膜が出てくるようになり、次第に袋状に伸びて鼠径管内を通り脱出します。いったんできた袋はなくならず、お腹に力を入れるとヘルニア囊の中に腸など、お腹の中の組織が出てくるようになります。これを外鼠径ヘルニアといいます。(図1)腹壁には弱い場所があり、年をとってきて筋肉が衰えてくるところを直接、押し上げるようにして腹膜がそこから袋状に伸びて途中から鼠径管内に脱出します。これを内鼠径ヘルニアといいます。(図2)外観は外鼠径ヘルニアと変わりません。鼠径部の下、大腿部の筋肉、筋力が弱くなって膨らみが発生するヘルニアを大腿ヘルニアといいます。

外鼠径(間接)ヘルニア



【図1】
鼠径ヘルニアの多くを占めているのがこの外鼠径ヘルニアで、身体の外側で多くみられます。お腹の中から内鼠径輪を通して小腸などが出てきます。内鼠径輪から男性では精索が、女性では子宮円靭帯がお腹の中から出ています。

内鼠径(直接)ヘルニア



【図2】
内鼠径輪を通過せず直接小腸などが出てきます。高齢者に多く見られます。

鼠径ヘルニア(脱腸)になりやすい人

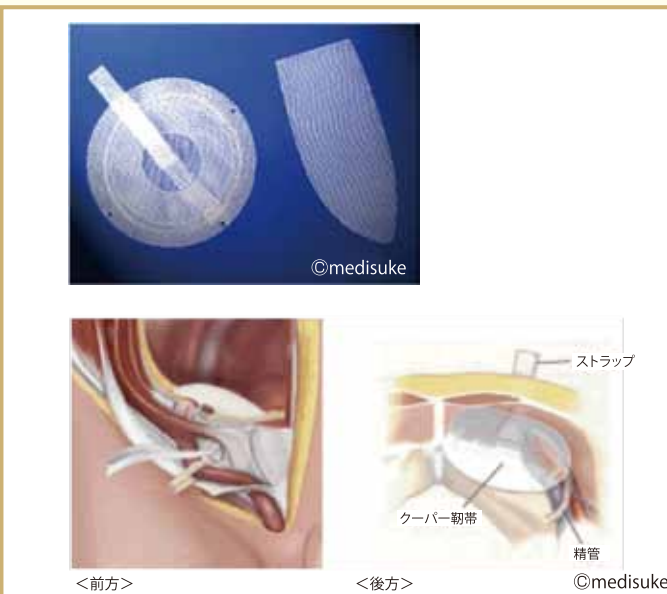
鼠径ヘルニアは、乳幼児の場合はほとんど先天的なもので、成人の場合は加齢により身体の組織が弱くなるのが原因で、特に40代以上の男性に多く起こる傾向があります。

乳幼児でも中高年でも鼠径ヘルニア患者の80%以上が男性ですが、これは、鼠径管のサイズが女性は男性より小さく、比較的腸が脱出しにくいとされています。また、40代以上では、鼠径ヘルニアの発生に職業が関係していることが指摘されており、腹圧のかかる製造業や立ち仕事に従事する人に多く見られます。便秘症の人、肥満の人、前立腺肥大の人、咳をよくする人、妊婦も要注意です。日本では年間に14万人(10万人あたり120人、堺市では1000人程度)の新規患者数と推定されていますが、多忙のため我慢していたり、「恥ずかしい病気」のイメージがまだにあって、受診を渋っている潜在的な患者様もかなり多いと推定されます。もし、ご自身の症状が上記に当てはまる場合は、一度、外科を受診してみてください。

鼠径ヘルニア(脱腸)の治療法

昔からある脱腸帯(ヘルニアバンド)は腸を出ないように押さえこむだけで根本的な治療にはなりません。新生児、乳児期の鼠径ヘルニア以外は自然治癒はないのでしっかりと治療するには手術しかありません。手術を焦る必要はないものの嵌頓(かんとん)が起きないうちに治療をしておくことが大切です。

手術は足の付け根を5cmほど切開してポリプロピレンと呼ばれる人工素材の糸を編んで作った膜様物(メッシュ)やプラグ(傘様物)を使ってヘルニアの穴をふさぐ方法が主流です。当院では腹部に3カ所の孔を開け、内視鏡を入れてモニターを見ながら腹壁の内側からメッシュを広くあててヘルニアの穴をふさぐ方法(腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術)も良好な成績を上げています。ヘルニア外来を受診して、専門医にご相談ください。



診療科案内 整形外科

1999年に整形外科診療を再開して、12年が経過しました。現在、常勤スタッフ2名と、外来非常勤医2名の体制で診療を行っております。2010年度の手術件数は188例で、初期数年間の手術件数と比較しますとほぼ倍増しております。内容的には約半数が骨折を主とした外傷の手術です。とくに高齢者に多くみられる大腿骨近位部骨折に対する骨接合術や人工骨頭置換術などの手術が多く占めています。また、近年は腰椎手術の件数が増加傾向にあります。



あたらしく整形外科スタッフが加わりました

2003年度から8年間にわたり当科の常勤スタッフとして勤務されておりました橋本医師が西淀病院に移籍されました。その後任として今年4月に吉岡篤志医師が着任されました。吉岡医師は耳原総合病院での初期研修を終えられたのち、京都市民医連中央病院(京都府京都市)、聖隷三原病院(静岡県浜松市)、あんしんクリニック(兵庫県神戸市)等の施設で合わせて3年間の後期研修を終了され、当院に戻ってこられました。外部研修では整形外科に関する全般的、総合的な研修を受けられ、なかでも人工関節手術については一歩踏み込んだ研修をされてこられました。今後、とくに人工関節手術に関する新しい技術の導入に力を発揮していただけるものと期待しております。

顕微鏡を使用した腰椎手術を導入しました

近年、外科分野において「低侵襲」の手術手法がキーワードとなっております。整形外科分野でも、小皮切による骨折手術や人工関節手術、内視鏡を用いた関節手術など、低侵襲の手法が開発されています。なかでも脊椎外科手術では内視鏡や顕微鏡を使用した低侵襲手術が広まってきています。

当院整形外科では、腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症に対して、2010年から顕微鏡を用いた手術を導入し、約20例の手術を行いました。手術用顕微鏡を用いますと、奥行きのある立体的な拡大視野が容易に得られますので、愛護的な手技の求められる神経周辺の操作をきわめて安全に行うことができます。また、従来の直視下手術では術者にしか見えない狭い術野での手術操作とならざるをえないことが多かったのですが、顕微鏡を使用することにより手術助手が同一の術野を見ながら介助を行うことが可能となり、これが安全性を高めるための一助となっています。また、顕微鏡を導入した結果、より小さな切開での手術が可能となりました。棘突起縦割法や棘突起間進入法による椎弓切除術など、手術侵襲をできるだけ小さくする工夫も行うことができるようになりました。もちろん全ての症例が小切開で行える訳ではありませんが、従来通りの手術方法であっても、顕微鏡を使用することにより安全に手術を行えていることを実感できています。さらに、小侵襲手術で手術を行った患者様は入院期間も短くなっています。

当院では今後も安全性と低侵襲性の両者を追求した手術治療に取り組んで参ります。

これからは人工関節手術にも力をいれていきます

当院整形外科では今後、関節外科分野にも力を入れていく所存です。とくに変形性関節症や関節リウマチに対する人工股関節と人工膝関節の手術は、疼痛を緩和し、関節機能を改善させるきわめて有効な手術方法です。これまで当院では人工関節手術につきましてはごく限定的にしか対応しておりませんでした。しかし、患者様からの要望がとて多い手術でもありますので、これからはできるだけ当院でも対応できるよう取り組んで参ります。

地域医療のパートナーとしてわれわれの目指すところ

今後、当院整形外科は骨折など急性疾患に対する手術治療、変形性関節症や関節リウマチに対する人工関節手術、腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症に対する顕微鏡手術などを柱として、手術的治療に力点を置いた診療へとシフトしてゆく方針としております。慢性疾患の日常診療はできるだけ地域の先生方をお願いしつつ、整形外科的な精密検査や手術的な治療の必要な場面において地域の先生方のお力になることができれば幸いに存じます。新病院建設を無事に成し遂げ、当科の診療体制がもう少し安定するまでは、何かとご不便をおかけする場面もあるかと存じますが、よろしく願い申し上げます。

2010年手術実績
(2010年4月~2011年3月)

- 総手術件数: 188件
- 手術の内訳(主なものを抜粋)
 - ① 腰椎手術 22例
 - ② 上肢
 - 上肢骨折 18例 / 手根管開放術 13例
 - 腱鞘切開術 14例
 - ③ 下肢
 - 下肢骨折 41例 (人工骨頭置換術 14例、ハンソンピン 5例、ガンマネイル 13例、他 9例)
 - 人工股関節置換術 2例 / 人工膝関節 / 1例
 - 関節鏡視下膝半月板切除 4例 / 下肢切断術 11例



耳原総合病院手術部では常日頃から「安心・安全」をモットーに日々手術を行っています。お気軽にご紹介ください。

3月の手術件数をご紹介します。

全身麻酔 55件
その他麻酔(腰麻・局麻・その他) 59件

診療科	麻酔	術式	件数	診療科	麻酔	術式	件数		
外科	全身麻酔	甲状腺悪性腫瘍手術	2	泌尿器科	全身麻酔	経尿道的前立腺手術(TUEB)	3		
		乳腺悪性腫瘍手術	3			腎(尿管)悪性腫瘍手術	1		
		乳管腺葉区域切除術	1			前立腺悪性腫瘍手術	2		
		胃全摘術	2			前立腺被膜下摘出術	1		
		肝切除術	2			経尿道的前立腺手術(TURis-P)	1		
		胆管形成手術	1			経尿道的尿管ステント留置術	3		
		腹腔鏡下胆嚢摘出術	6			前立腺生検	8		
		腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	3			膀胱悪性腫瘍手術(TUR-BT)	5		
		腹腔鏡下直腸切除・切断術	1			膀胱結石、異物摘出術(経尿道的手術)	1		
		小腸腫瘍、小腸憩室摘出術	1			整形外科	全身麻酔	骨折靱血的手術	4
小腸切除術	2	人工骨頭挿入術	2						
ヘルニア手術(腹壁癒痕)	2	椎弓切除術	1						
ヘルニア手術(臍)	1	断端形成術	1						
ヘルニア手術(鼠径)	1	腸窩窩膿瘍掻爬術	1						
ヘルニア手術(大腿)	1	骨内異物(挿入物)除去術	2						
急性汎発性腹膜炎手術	1	その他麻酔(腰麻・局麻・その他)	その他麻酔(腰麻・局麻・その他)	骨折靱血的手術	1				
人工肛門閉鎖術	1			手根管開放手術	2				
その他	1			腱鞘切開術	1				
ヘルニア手術(鼠径)	2			半月板切除術(関節鏡下)	1				
その他	7			その他	4				
呼吸器外科	全身麻酔			胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	2	産婦人科	全身麻酔	子宮付属器悪性腫瘍手術(内、腹腔鏡下4件)	5
				胸腔鏡下肺切除術	3			子宮全摘術(内、腹腔鏡下1件)	6
				胸腔悪性腫瘍摘出術(その他も)	1			帝王切開術(内、緊急3件)	6
				その他	1			子宮内膜ポリープ切除術	1
心臓血管外科	全身麻酔			弁置換術	2	その他麻酔(腰麻・局麻・その他)	その他麻酔(腰麻・局麻・その他)	子宮頸部切除術	1
		冠動脈、大動脈バイパス移植術(CABG)	1	その他	2				
		上行大動脈瘤切除術	1	全身麻酔	早期悪性腫瘍粘膜炎層剥離術			2	
		血管移植術、バイパス移植術	2	その他麻酔(腰麻・局麻・その他)	早期悪性腫瘍粘膜炎層剥離術			1	
		内シャント設置術	1	その他麻酔(腰麻・局麻・その他)	その他麻酔(腰麻・局麻・その他)			白内障(PEA+HOL)	8
		内シャント血栓除去術	1					翼状片手術	1
		その他	1						